

令和5年度 小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	秀峰会	代表者	櫻井 大	法人・事業所の特徴	ヒューマン・ケア・ネットワークの構築（包括的にニーズに応える） デス・エデュケーションの理念（死を考えることでよりよい今を生きる） 24時間365日の安心をご提供
事業所名	やまざくら	管理者	新井 修		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	人	人	1人	人	人	2人	2人	2人	人	7人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	「ご利用者担当制」は有効性を見極め実施可否を検討。 「ご家族視点」を取り入れる。	毎月「ご利用者情報」を更新し、最新の状態把握に努めたが、職員体制等で担当制には至らず。ご家族視点はアンケート等で相互に意見交換出来た。	・課題に対してポイントを的確に捉え実行していこうという姿勢が伺えた。	・情報共有事項の重要度を設け、最重要・重要案件については職員にヒアリングの上、理解度を確認する。
B. 事業所のしつらえ・環境	清潔保持及び感染症対策徹底	・日々の清掃、消毒等実施により、衛生的な環境保持	・清潔で居心地良い環境が保たれている。	前回計画の継続
C. 事業所と地域のかかわり	「川崎市生活支援コーディネーター」活動として近隣の「気になる方」をケアしつつ、地域交流を推進する	・前年度と比較し、ボランティア活動などもある程度受け入れ出来た。コーディネーター事業も、移動販売を取り入れ安定的に実施してきた。	・外にベンチを置いてくれたり、歌などの季節行事参加を呼び掛けている様子が伺えた。 ・接遇がしっかり出来ている。	「地域資源」について今一度学んでいく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	「生活支援コーディネーター」事業の受託により、小地域での問題点等、課題抽出に取り組む(継続)	「気になる方」に対してのアプローチは年間を通じて活動できた。訪問なども積極的に実施した。	・コロナ禍では難しかったが、町会や小学校イベントなど協力してくれる体制がある。 ・外部交流を楽しまれている様子見られる。	「生活支援コーディネーター」事業の受託により、小地域での問題点等、課題抽出に取り組む(継続)
E. 運営推進会議を活かした取組み	定期開催の実施	コロナ禍にあっても会議開催を意識し実施出来た。情報はお互いに共有出来てきている。	・活動内容を解りやすく図を使って説明してくれる。	継続して地域課題を共有し、解決に向け連携強化していく。
F. 事業所の防災・災害対策	運営推進会議や地域会議等でテーマとする。	年二回の訓練実施	・以前台風の際、近隣の方が避難を希望したところ、快く引き受けてくれたと独居高齢者から聞いた。	左記ご意見を受け、運営推進会議や地域会議等でテーマにする。